



地域支援センター「みみらんど・郡山」

令和2年度 地域支援センター特別支援教育研修会



テーマ「授業改善に向けてカリキュラム・マネジメントから考える」

新型コロナウイルス感染症につきましては、長期的な対応が求められるところではありますが、こうした中、地域の聴覚に障がいのある幼児児童生徒にかかわる教員を対象に、感染症対策を十分に講じた上で、6月17日（水）、東北福祉大学教育学部教授の大西孝志先生をお招きしての研修会を開催いたしました。地域の幼稚園・小・中・高等学校の先生方にもご参加いただき、実りある研修会となりました。

【令和元年度の大西先生の調査結果より】

- ・小・中学校に在籍する難聴児（聾学校が把握している分）は聾学校の在籍よりも多い。
- ・地域で学ぶ、補聴器等を使用する児童生徒への支援が聾学校に求められている。
- 地域の実情による違いが大きい
- ・小・中学校の両耳人工内耳装用は聾学校よりも多い。

【新たな教育課題】

新たな教育課題に対応した教員研修・養成の柱に「特別支援教育の充実」が位置付けられた。

◎指導側に「特別支援教育」「共生社会の形成」の意識がないと指導漏れが生じる。

～特別な支援が当たり前の世の中に～

マイノリティ（少数派）の人が「共に生きやすく」人種、民族、言語、文化、障がい……で分けることをしない社会へ

情報があってもそれが子どもに届いていない

- ・立場によって呼び方が変わる
- こと
- ・雛人形の並べ方はなぜ右と左が逆なのか
- ・大の月と小の月 等
- 言語、言葉の指導には「教育課程」がないので厳密には「カリキュラム・マネジメント」ではないが、年齢相応の経験と言葉・知識をバランスよく伝えることは子どもの発達に大切。

教科書に見る教科横断的な「カリキュラム・マネジメント」どの教科書、教材、教科であっても同じ言い回しを使い、耳に届けている。

カリキュラム・マネジメント

《指導漏れを防ぐために》

「教えていなかった」「前の担任が悪かった」「保護者が教えていない」などにならないようにする。

《他から学ぶ》

「この学年では、このことを教えておくのか」→教師のおさえ

「この時期に、これをやっとなないと、ここでつまづく」

→見通しのある指導

◎知識と知識を繋ぐ（教科等横断的、生活と教科の結び付け）

◎いかに子どもに即時即応で 多くの情報を入れているか

◎言語概念の共有と形成を大切に

《参加者の感想より抜粋》

★ 言語概念を共有していき、教科横断的さらには日常的にカリキュラムマネジメントしていく重要さを感じました。自分の担当する子どもの実態を考慮しながら責任をもって進めたいと思いました。